

〔8番 井端浩二 登壇〕

○8番（井端浩二）

議長のお許しをいただきましたので、久しぶりの質問でありますですが大きく2つ、似たような質問であります質問させていただきます。

まず初めに、飛騨市ファンクラブについて。1番、会員数の市内、県内外、年齢的な割合はどうなっているのか。2番、部活動の活動内容と市はどのように携わっているか。3番、部活動の中には部費や宿泊、食事等が必要になる部もあると思いますがどうしているのか。4番、今後の運営に当たり、問題点や今後の計画などをお尋ねさせていただきます。

2017年に発足しました飛騨市ファンクラブも約7年が経過し、会員数も約1万7,000人になり、6月4日にも新聞に「地域コミュニティ賞」を受賞した記事が掲載されていました。会員数も増えており、関係人口創出の取組もあって大変素晴らしいことだと思っております。市民に知ってもらうためにも、ファンクラブの取組内容と成果、今後の問題点について、次の質問をさせていただきます。

1番、会員数は市内、県内、県外、年齢的な割合はどうなっているのか。会員数も約1万7,000人で、人口を超える日が近いのではないかと思います。市内、県内、県外の割合、岐阜県周辺が多いと思われますが、どのようになっているのか。年齢的割合、会員に向けてのイベント等の諸連絡はどうしているのかお尋ねさせていただきます。

2番、ファンクラブの中には部活動があると聞いていますが、どのような部活動があって、活動内容、部員数はどうなっているのか。また、部活動は会員の中から提案があって成立していると聞きましたが、私の考えの中に祭り参加部をつくりたいということがあって、ファンクラブに最近入会させていただきましたが、担当者に聞くと、2017年、設立の年の6月に入会しているようで、入会していることを忘れていたようではファンクラブのイベントに参加していないということです。大変反省するところで、お詫びをさせていただきます。今後はしっかり参加させていただきたいと思っています。昨年、今年の古川祭の起し太鼓も人足不足で向町の朱雀組と殿町の青龍組で協力し合い、何とかしました。神社の行事でもありますが、観光的にも大変大事な祭りであると考えております。当然、市民の協力も必要であります、ファンクラブの会員の中にも参加してみたいという人もいらっしゃるのではないかと考えられます。起し太鼓になるとルールの説明やさらしを巻いてあげる人、宿泊等も必要になります。市や飛騨市観光協会がどこまで協力できるのかお尋ねさせていただきます。

3番、部活動の中には宿泊や食事等が必要になる場合があります。市としてはどのようにしているのか、市内の業者を利用しているのか確認をさせていただきます。

4番、今後も会員数は増えていくと考えられますが、現在までの運営での問題点や今後の計画、そして3年先の10周年記念事業等はどうしていくのか確認をさせていただきます。

以上、4点をよろしくお願いいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔企画部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

ファンクラブにつきまして、4点お尋ねをいただきました。順次お答えをさせていただきます。

まず、1点目の会員構成等のお尋ねでございます。飛騨市ファンクラブは2017年の設立以来、会員数は年々増加し、5月末時点で1万7,000人に達しました。ふるさと納税や飛騨市への観光をきっかけに入会される方が多く、県外の会員が全体の約8割を占めており、市民会員は0.5%になります。また、年代別では10代から90代以上と幅広い年齢層の方々が会員となっておりまして、割合といたしましては50代の方が最も多く全体の3割、続いて40代、60代で約2割となっております。ファンクラブ会員向けの情報につきましては、ファンクラブサイトですとかメールマガジン、SNSなどを活用しながら発信をしております。

次に、2点目の部活動についてでございますけれども、部活動は市内にある様々な資源をテーマに、会員が主体となって自由に行動を行うものでございまして、ファンクラブ会員であればどなたでも設立することができます。現在、薬草部、山部、宇宙物理学部など9つの部活動が設立されておりまして、総勢130人が部員同士の交流を深めながら登山ですとか野草摘みなど、主体的な活動を行っていらっしゃいます。市といたしましては、部活動への入部手続きですとか、新しく部活動を設立される際のサポートを行っております。あと、議員ご提案の祭り参加部につきましても入部のお手伝いをさせていただきますし、会員特典として市内宿泊施設での1,000円割引ですとか、市内対象飲食店で使用できるクーポンがありますので、ご活用いただけたらと考えております。

次に、3点目の部活動の部費や宿泊、食事等についてでございますけれども、先ほども述べましたように、飛騨市ファンクラブ会員の特典といたしまして、市内宿泊施設で1,000円の割引が受けられるほか、市内対象飲食店で使用できるクーポンを配布しておりますので、現在部活動に対する個別での支援は行っていないのが現状でございます。これらの特典をうまくご活用いただきながら、活動を行っていただきたいと考えております。

次に、4点目の今後の運営に係る問題点や計画についてですけれども、会員数が増加するにつれて会員証や名刺の発行などの事務的な作業や会員からの問合せなども増加し、これらの対応が追いついていない状況がございます。名刺印刷等の定型化された業務についてはアウトソーシングするなど、今後も継続的に事業を行っていくための工夫について検討していきたいと考えております。また、飛騨市ファンクラブは、これまでも会員の皆さんの声を取り入れながら活動を行ってまいりました。2027年に設立10周年を迎えることとなりますけれども、会員の皆様と一緒に祝う記念事業を企画していきたいと考えております。

〔企画部長 森田雄一郎 着席〕

○8番（井端浩二）

今9つの部活動があると言われましたが、全部で130人、ちょっと少ないような感じもしますが、部員同士の諸連絡はどのようにしているのか。携帯で番号を教え合っているのか、ちょっとその辺を確認させてください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

部活動は、こういった部活動をつくりたいよといった方、主体となってやられる方がまずご相談にいらっしゃいます。そこでいろいろと内容をお聞きして、こういった部活動であればいいのではないかなということを思ったときに部活動が設立されるわけですけども、こういう部活動ができましたよということを、市のウェブサイトとかSNSとかでも発信をさせていただいて、これ面白そうだから私もちょっと参加してみようかなということを、エントリーをウェブ上からしていただくのが通常でございます。そのときにメールアドレスとかそういった情報もお寄せいただきますので、そういった情報をあらかじめ参加を希望される方の承諾を得た上で主催者のほうにご連絡を差し上げます。主催者の方が新しく入部されてきたなということで、その方々をメーリングリストに追加するような形で、主催者のほうからその方々に連絡を取り合って、ウェブ上とかで実際に呼びかけをして集まっている話合いとか活動をすることもありますし、最近ではウェブ上でテレビ会議とかもありますので、そういったところで集まったりするという形での運用がなされております。

○8番（井端浩二）

いろいろと部活動の活動をしていると思うんですが、薬草部とか、山部とかがあるみたいなんですけど、活動した報告というか、それをみんなに知らせるといえるのか、そういったことについてはフェイスブックや何かがあるという話を聞いたんですが、こんな活動をしましたよという報告はどのようにしていますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

先ほどご答弁で申し上げましたように、自主的な活動という形で部活動を行っていただいておりますので、基本的にその主催者の方々から情報発信をしていただきたいというふうに考えております。それに加えて、ちょっと活動的にですね、これ面白そうな活動だなといったことがありましたら、こちらの事務局のほうでも時々取り上げて情報発信するというのもあるかと思っております。

○8番（井端浩二）

そういう携帯のアプリみたいなものがあるといいのではないかなと思うんですが、僕も防災士会で入っていて「飛騨市防災特設サイト」というアプリがあるんですよ。僕はそれを携帯の中に入れているんですが、そのアプリを見ると川の情報とか警報が出たよというような情報がすごくあるんですが、それは防災のサイトですが、「飛騨市ファンクラブ」というアプリがあると、そのアプリを見たりすると部活動の情報とか、あるいはいろいろなことが分かるのではないかなと思うんですが、アプリをつくる方法、僕はあまり詳しくないのであれなんですけど、携帯にそのアプリを入れれば意外と簡単に飛騨市ファンクラブというものを見れて、情報発信ができて、また飛騨市に来てみようかなという気になるのではないかなと思うんですが、そういったアプリについての導入等については果たしてできるのか、そういう考えがあるのか確認させてください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

アプリができるのかできないかと言われれば、それはできると思います。ただし、内容というかつくり込み方にもよるかもしれませんが、それ相応の費用をかけてつくり、その後のメンテナンスのことも考えて検討する必要があるかというふうに考えております。現時点におきましてはですね、ちょっとハードルを下げて、皆さんお使いのLINEというアプリがあると思いますけれども、LINEの1つのオプション機能みたいなものを活用して、そこで登録をしていただいた方々へのプッシュ通知とか、そういう形で既存のアプリを活用できないかなというふうに現時点で考えております。

○8番（井端浩二）

ぜひアプリを導入して簡単に見れるようにしてもらえれば、また飛騨市へ行こうかなという考えも出てくるのではないかと思いますし、もっと会員数も増えるのではないかなということを思っていますので、何とか考えていただきたいなと思っています。そしてさっきお詫びしましたが、1万7,000人も会員がいると私のように入ったこと自体を忘れているとか、あるいは眠っている会員もいらっしゃるのではないかなと思いますが、そういった方に再度参加してもらおうといったことについては何か考えていること、どのくらい僕のような人がいるか分かりませんが、その辺について掘り起こしというか、復活させることの考えは何かないですかね、お尋ねさせていただきます。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

こういったファンクラブみたいな形の運用上、どうしても眠っている会員は出てくるものだと。これぐらいのボリューム感になってきますと、それは致し方ないのかなというふうに考えております。恐らく、数日前にもファンクラブの会員の方々向けに定期的にメールとかでお送りしておりますけれども、そういった情報は多分井端議員のところにも行ったのかなと思っておりますが、先ほどもちょっと確認したんですけど、実は1万7,000人のうち約2,000人ぐらいはメールアドレスの登録がない会員もいらっしゃるみたいで、そういう方々へのアプローチというものはなかなか難しいかなと思いますけれども、それ以外の方々につきましては、メールでのご案内ですとか、様々な媒体を通じて、SNSとかを通じて情報発信をすることで、再びそういえば私ファンクラブ会員だったな、ちょっとのぞいてみようかなといったようなところに訴求できるかなというふうに考えておりますので、やはり情報発信が要かなというふうに考えております。

○8番（井端浩二）

ぜひアプリも含めて検討していただきたいと思いますし、また会員もどんどん増えていくと思いますが、会員の方が再度飛騨市へ訪れて、飛騨市が潤うような形にしていきたいと思えます。また私もいろいろと参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、次の質問をさせていただきます。ヒダスケ！について。1番、今までのプログラム内容、参加人数、参加者の声はどのようなものか。2番、登録者の市内、県内外の割合は。3番、今後の運営に当たっての問題点は。

飛騨市ホームページにヒダスケ！の登録者が約5,000人、飛騨地域の人と交流しながら困り事

を助け、手伝ってもらえることは大変ありがたく感謝するところでございます。今後も交流しながら長く運営していただくためにも、次の質問をさせていただきます。

1 番、広報ひだ6月号の表紙にもなっておりましたが、ミョウガ畑の手伝いやコイの引っ越し、河川の清掃、祭りの手伝いなどプログラムはいろいろとありますが、約5年たった今、プログラム内容によっては参加者の人数、参加者の声など、さるぼぼポイントの「オカエシ」では少ないような気がします、参加者はどのように思われているのか確認をさせていただきます。

2 番、登録者が5,000人いるようですが、市外、県内外はどのようになっているのか。先ほどでは県外が80%ということでございますが、それも確認をさせていただきたいと思います。

3 番、今後の運営に当たっての問題点は。

以上、3点よろしく願いいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔企画部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

ヒダスケ！につきまして、3点お尋ねをいただきました。まず1点目の、これまで実施してきたプログラムの内容ですとか、参加人数、参加者の声についてお答えいたします。

プログラムの創設以降、コイの引っ越し作業ですとか古川祭の屋台引き、地域イベントの運営スタッフなど、5年間で411のプログラムを実施し、延べ参加者数は4,630人となっております。ヒダスケ！は、地域の困り事とそれをお手伝いしてくれる方をマッチングし、お手伝いをしてくれた方にオカエシをお渡しするまでの一連の流れをプログラム化した制度でございます。単に人手不足を解消するために募集するものではなく、お手伝いを通じて募集者である「ヌシ」との交流や、参加者相互の交流を念頭に、人と人とのつながりを促す。プログラムとなるよう心がけております。

もちろんオカエシとしてお渡しをしております、さるぼぼコインを目的とした参加者もいないとは言えないかもしれませんが、参加者からは「普段経験ができないことに関わることができてうれしかった。」、「地域の人と交流できて楽しかった。」、「飛騨市に来て面白かった。」等々の感想をいただいております。継続的に参加されている方々からは、オカエシが目的であれば、高い交通費をかけてまで飛騨市には来ないという意見も寄せられておりまして、金銭的な対価を求めて参加する方よりも、非日常体験を楽しみに参加する方、あるいは人と人とのつながりを求めて参加する方など、日常生活の中で得ることができないことを求めて参加している方が多いと認識をしております。今後も、ヒダスケ！プログラムの募集者とヒダスケ！参加者の双方が、幸せな気持ちになれるようなプログラムの提供に努めてまいります。

2点目の、登録者の市内、県内外の割合についてお答えいたします。参加者の居住地域の構成といたしましては、県外が全体の45%、飛騨市を除く県内が30%、市内は25%となっております。ご参考までに、継続的に参加されている方の中には、遠方から190回以上参加されている方もいらっしゃいます。

3点目の、ヒダスケ！の今後の運営に当たっての問題点についてお答えいたします。ヒダスケ！の参加者やプログラム数は年々増加をしておりますけれど、地域で抱える課題を解消したい

募集者と、飛騨市での非日常体験等を求めて参加する方々、双方の満足度向上につながるプログラムを提供し続けていくことが課題と考えております。そのためには、プログラムの企画に当たり双方のニーズを的確に酌み取るとともに、募集者と参加者のそれぞれに負担感が生じないようバランスを取ってプログラムを設計することが大切だと考えております。ヒダスケ！のプログラムの企画・運営は、設立当初から地域おこし協力隊がその役割を担ってまいりましたが、今年の4月からは集落支援員として携わることとなり、これまで培った経験に基づき、より地域に根差した活動を行うことができる体制となりました。市といたしましても、集落支援員と連携の上、募集者及び参加者とのコミュニケーションを図り、ヒダスケ！のプログラムを通じて飛騨市に関わってくださる方々の満足度向上に努めてまいります。

一方で、プログラム数、参加者数は増加傾向ではあるものの、まだ市民に浸透しきれていない面もあると感じております。市民の誰もが困り事解消のためにヒダスケ！を活用することができるということを、事例も紹介しながら周知していきたいと考えております。議員もご承知のとおり、先週6月13日に政府が「新しい地方経済・生活環境創生本部会議」においてですね、新たな地方創生の基本構想を取りまとめ、閣議決定がなされました。その中で、関係人口の増加を目指すべく「ふるさと住民登録制度」を創設する旨が盛り込まれました。まだ制度の詳細は伝えられておりませんが、先駆的に取り組んできた当市といたしましては、積極的に制度の活用を検討し、今まで以上に飛騨市に心を寄せてくださる方々や関係人口の創出に取り組んでまいりたいと考えております。

〔企画部長 森田雄一郎 着席〕

○8番（井端浩二）

遠くからでも交通費を払って来ているということは大変ありがたいことですが、当然昼食あるいは宿泊等が必要になってくると思います。その辺については個人払いになると思うんですが、予約等については自分たちで取っているんですか、その辺だけ確認させてください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

先ほどファンクラブのところでご答弁を申し上げました、クーポンのご活用もいただけるかと思えます。ただし、予約とかにつきましてはご自身でお取りをいただくという運用になっております。

○8番（井端浩二）

この登録者というのは、ファンクラブに入っていないと登録できないんですか。入っていないなくても登録できるのか、その辺だけもう1回確認します。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

基本的に登録がなくても、ヒダスケ！にはご参加をいただける仕組みとなっております。

○8番（井端浩二）

ファンクラブと一緒に、ヒダスケ！の登録者がどんどん増えていくと大変ありがたいと

思います。ただ、さっきも言ったように一般市民からの困り事で個人的なことがなかなか言い出しにくくて、団体とかで困り事をお願いすればいいと思うんですが、個人的な困り事でもいいのか、その辺だけ確認します。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

個人からのお申し込みで全く問題はございません。先ほどちょっと答弁の中で市民の方々にもう少し浸透していくといいなということをお伝えしたかと思いますが、ちょうど今区長会とかも開催されておりまして、ここで言う集落支援員が主になっていますけど、集落支援員が区長会の場に出向いて行ってですね、こういった使い方もできるんですよといった紹介を今年はさせていただいておりますので、私どもの事務局としても市民の方に少しでも知っていただいて、お気軽にご活用いただけるような形で周知に努めてまいりたいと考えております。

○8番（井端浩二）

ヒダスケ！の会員登録者もファンクラブと一緒にどんどん増えていくといいと思いますし、また、市民にも知っていただいて、困り事があれば気軽にできるようになるといいなと思います。私も1回は参加しますので、またよろしくお願いします。

大変短いようでございますが、これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

〔8番 井端浩二 着席〕